

『希望の大地へ』

近づくアフリカ開発会議

●●2

工具や万力などが所狭度(び)にかけ、県の海外技術研修員受入事業を利用して、計三人が弟子入りした時間の中で技術を自分

「師」は、横浜市戸塚区の戸塚駅近くに義肢製作所を構える義肢装具士の平井貞夫さん(78)。「第一は、ルワンダから来日した研修生たちだ。平井さんのものには、二〇〇四年度から〇七年



アフリカ
ルワンダ

癒やしの義肢伝え

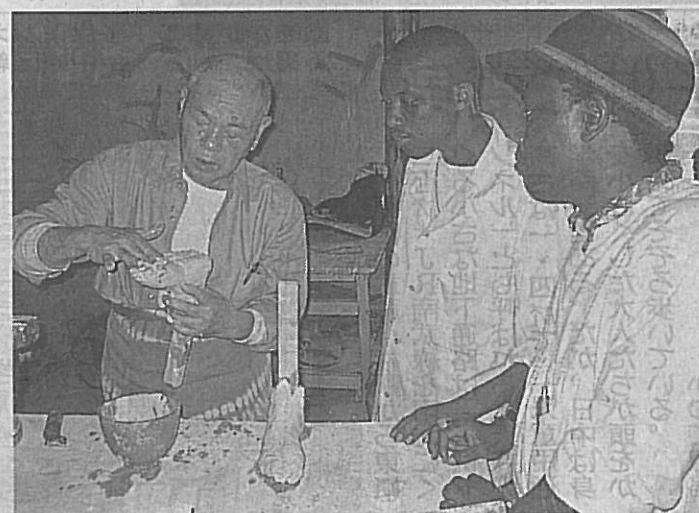
生活支援①

た。民族対立が引き金となり、一九九四年に大量虐殺が起きたルワンダで、一週間ごとの細かな研修は、一命を取り留めたものの、なだて手足を切断と患者の体の特徴をつかさされた被害者が今も苦しむ。自分たちが日本で習得した技術が、母国の人たちが平穏な暮らしを取り戻す一助になれば。んだのも、実は平井さん

こんな思いを抱きながら、平井さんの指導を仰いだ。三人に与えられた研修期間はその半、プロシエクト」の副代表。だが、決して充足する

からだ。そうした状況下で、指すルワンダの人たちを支え続ける。今、真美さんらの義肢製作活動の中心メンバーとして汗を流す。平井さんは一年前、ルワンダに出向き、教え子たちが活躍する姿に目を細めた。直伝の義肢の技術は今後も、再出発を目

真美さん(45)。真美さんは修業を積んだ後の九七年、幼いころの医療ミスが原因で右足に装具を着けているルワに足りない(真美さん) ◆アフリカの紛争ルワンダのは、かにも、1980年代以降、ソマリア、スーダン、コンゴ民主共和国、シエラレオネ、リベリアなどで相次いだ。冷戦の終結、民族や宗教の



この記事は、神奈川新聞社の許可を頂き、掲載しています。

※無断転記は、堅くお断りします。

ムリンディ・ジャパン・フロンティア・プロジェクト